

高山西ロータリークラブ

創立1966年1月15日

例会報告 Rotary



ロータリーは世界の扉を開く

第2627回例会 令和2年10月16日
出席・プログラム委員会

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 塚 和信
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 下屋 勝比古
- 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 榎坂 純一

＜会長の時間＞

飛騨産業株式会社さんが創業100周年を迎えられ、本日は、後ほど岡田さんより100年の歩み等につきまして卓話があると思いますが、長寿企業についてお話をしたいと思います。



高山におきましても、創業年数が100年以上の企業がたくさんあると思います。造り酒屋とか有名料亭などは200年以上になると思います。世界で創業年数100年以上の企業の総数は80,066社あり、国別に調べると最も多いのが日本の33,076社(41.3%)で、2位が米国の19,497社(24.4%)、3位にスウェーデンの13,997社(17.5%)となります。さらに世界で創業年数200年以上の企業の総数は2,051社あり、1位が日本の1,240社(65%)で、2位が米国で239社(11.6%)、3位がドイツで201社(9.8%)となります。

日本において、100年企業で業種別に調べると製造業が26%で、これに小売業23.5%、卸業22.3%と続きます。売り上げ規模で調べると、1億円未満の企業が41.7%、1億~10億円未満が39.1%、10億~100億円未満が14.5%となり、8割以上の企業が10億円未満となっています。

日本で最も古い会社は、大阪にある株式会社金剛組です。創業は西暦587年の飛鳥時代で、創業年数1433年となります。聖徳太子が、宮大工の金剛重光を百済から招き、四天王寺を建設したのが始まりで、創業したのが金剛組です。2005年まで金剛一族が経営し、創業者である金剛重光の匠の技を引継ぎ、神社仏閣建設の設計・施工や文化財建造物の復元や修理等を手掛けて歴史を刻んできましたが、経営危機に陥り2005年に高松コンストラクショングループに支援を受け、新会社として事業を継続しています。金剛組は、日本のみならず世界で最も古い歴史を有する会社ですが、日本には創業年数が1,000年以上の企業が7社もあり、2位が一般社団法人池坊華道会で創業587年、3位が西山温泉慶雲館で創業705年です。また、創業年数が500年以上の企業が32社あります。

このように、日本は世界でも有数の老舗企業大国ですが、その背景には家督相続という習慣に隠されているようです。家督制度は、戸主が死亡すると長男が権利・義務をすべて相続するという旧民法で定められた遺産相続方法です。新憲法では家督相続性は廃止となりましたが、数多くの老舗企業を育ててきた背景にあると思います。

現在、日本の社長の平均年齢59.9歳で年々高齢化が進み、後継者難による廃業や倒産も増えています。一方、ベンチャー企業の生存率は、起業から5年後には15%、10年後には6.3%、20年後にはわずか0.3%と大変に厳しいです。今回のような、予期せぬ新型コロナウイルス感染症による経済への影響や、技術革新の急速な進展により、経済社会に大きな変化が起こる時代において、企業が生き残るということは大変なことです。絶え間ない努力と、常に時代の変化を読み、時には冒険を試みる勇気がないと生き残ることが出来ないのではないのでしょうか。

＜幹事報告＞

◎高山市長より

- ・いのちの森づくり(植樹)のご案内について
- 日時 10月31日(土) 13:30~15:00
- 会場 東部工場団地(松之木町)
- 内容 横浜国立大学名誉教授 宮脇 昭 先生提唱のいのちをつなぐ森づくり

＜受贈誌＞

下呂RC(会報)、美濃加茂RC(会報)、米山記念奨学会(ハイライトよねやま247)

＜出席報告＞

| 出席 | Make-Up | 出席者数 | 会員数 | 出席率 |
|-----|---------|------|-----|--------|
| 29名 | - | 29名 | 37名 | 78.38% |

＜本日のプログラム＞

出席・プログラム委員会

委員長代理 米澤 久二

本日は、今年創立100周年を迎えられた飛騨産業さんについて、岡田賛三さんに卓話をお願いいたしました。100年を30分で語れ、というトンデモない依頼を快く引き受けて頂きました岡田さん、ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。



飛騨産業の100年

飛騨産業(株)
代表取締役
岡田 賛三

先程会長の時間のお話もありましたが、日本には世界から見ても突出して創業100年を超える企業が沢山あり、なかには



創業何百年という会社もある中で、飛騨産業100年くらいで偉そうな顔するな、とも思いますが、100年を超える会社は企業数の割合で言いますと1%ないとも言います。そして飛騨高山の地において100年の歴史を繋いできたという事は、飛騨の人間にとっても誇りと言える会社ではないか、と思います。私も若い頃仕事で外へ出た時などには「高山には飛騨産業という会社があります」と自慢げに話していたものですが、時代が下がり会社が危機に瀕し、当時私が監査役であった際、役員会で社長を頼むとの申し出に対し、使命感

例会報告

に燃えて引き受けてしまいました。会社の財産は人・物・金・情報と言われますが、結局全て人についてくる以上、人がいなければ経営資源が活かされない訳です。数字的には大変厳しい状況でしたが、いざ入ってみると、歴史を刻んできた会社には得難い経営資源である人、ものづくりと飛騨産業の家具が大好きな人間が沢山いるのだから大丈夫、という根拠のない自信を持つことが出来ました。遮二無二頑張りまして創業100年を迎える事ができ、次の100年へ向けてのスタートに立てたことは大変感慨深いものであります。



この曲木の椅子はドイツのトーネットという会社が200年くらい前に開発した椅子で、世界的なベストセラーとなり日本に入ってきました。大阪の椅子工場に飛騨の二人の兄弟が勤めており技術をもって高山へ帰ってきました、その話を聞いた高山の商人がそれなら飛騨でも作れるだろうからやってみよう、と始まったのが1920年、中央木工のはじまりと言われています。

しかし、それまで西洋家具など見たこともなかった人たちが作る訳ですから、曲木にチャレンジしても、そう簡単にはいかなかったようです。やっと製品になっても納品しようとしたそばから壊れてしまう、と大変な苦勞を重ねまして、どうにもならなくなって解散しよう、となりましたが、その技術に関心をもった人間が資金を出し合いまして、飛騨で初めての株式会社である飛騨木工として再出発するに至りました。

輸出はウインザーチェアが中心 最盛期は87%を輸出



創業期には飛騨の匠の技術を曲木、または折り畳みいすとして、荷馬車に積んで岐阜まで運びそこから全国そして海外へと輸出するに至りました。戦後はアメリカで大変もてはやされ膨大な数の椅子を輸出し、輸出の振興に対して内閣総理大臣表彰を受けるまでになりました。しかし日本国内で高度成長期により住宅建設も進み、生活も西洋様式へ変化して国内需要が高まる中で、オイルショックと円高の時代がやってきて、国内販売に舵を切る方針を打ち出しました。

そんな中で花森安治さんとの出会いがありました。花森さんは朝ドラ「とと姉ちゃん」にもなりました。『暮らしの手帳』の編集長として、様々な商品テストを行い紙面上でたくさんの製品をこき下ろしていた方ですが、飛騨



に来て私どもの家具を気に入ってくれ、これなら販売したい、と東京の展示会場での看板にも揮毫して下さいました。会社の知名度が

全国的に上がったきっかけとなった、我が社の恩人ともいえる方です。その頃、1969年から発売している『徳高』は、いまだに当社の主力商品。デザイン等改善する箇所が無い完成度で、しばらくはこれに類似した商品で飛騨産業のイメージが定着しました。

しかし1990年頃からバブル崩壊に伴い住宅着工数の減少に伴う需要減少。そして中国やベトナムなど海外産の安い家具の流入があり、1999年には売上、社員数も最盛期の3分の1程とどん底の時代に私は社長に就任しました。物、つまり在庫はあるけど金はない。しかし全社員・取引先と話し、人はいると確信しました。まず出来ることからと財産の処分、在庫の処分を行いました。売り上げが落ちている以上縮小志向になってしまう中でどうしたものか、という状況でした。



そんな中で開発したのがこの『森のこぼれ』です。当時の高級家具には木の節があったらダメ。仕上げのひと削りで小豆大の節が出てきてもダメ、と不良品がボイラーの前に山積みになっている。なぜダメなのかと聞いてみると、お客

さんは節があるのは汚いといって買わないから返品される、と言うのです。じゃあ節をテーマにした家具なら100人に一人位、私みたいな天邪鬼が面白いと思うはずだ、節を主役にして、節は造形美だ、神のデザインだ、ひとつひとつ個性がある…などと私が熱く屁理屈を並べて、タブーだと言っていた社内の人間を説き伏せ、さらにはデザイナーの佐々木敏光からもやっと賛同を取り付けるに至りました。この『森のこぼれ』というネーミングも、節は森を色々知っている…、という感じでうまくハマったんじゃないかと思っています。プロトタイプをフェアに出した所、若いカップルが来て座り込んで「これ素敵ね〜。こういうの待ってたよ〜」と。たまたま通りがかってそれを聞いて涙が出る程嬉しかったです。若いバイヤーからの発注もあり大増産のヒットとなりました。しかし当時アメリカから材を買ってまして、これまでは節があるのはダメと選別していたのに、これからは節があるのを送ってくれ、と。急なオーダーで節があるといってもそうそうあるはずない、飛騨産業の新しい社長はクレイジーだ、とアメリカの製材所の社長が驚いて飛騨に飛んできた、なんて事もありました。

この「森のこぼれ」のヒットは、市場には自然志向のお客様も沢山いる、という自信に繋がりました。そして思ったのが、飛騨の山にはこんなに木が茂っているのにそれを使わず、なぜアメリカから輸入しているんだろう、という事です。戦中戦後、そして高度成長期、大木が伐採されナラやブナはもうほとんどない。戦後植えたスギ・ヒノキは建築材としてはまだ早いし、花粉症の元凶として嫌われ者…。杉の研究をすると、学名は『クリプトメリア・ジャポニカ』江戸末



期イギリスの植物学者が日本の植生調査にやってきて発見した固有種で、「隠された日本の財産」という意味だそうです。これを隠したまま、というか放ったらかしのままはもったいない、杉はあったかくて香りもいい、素直な木です。杉をモノにしよう、と決意しました。しかし家具にするには柔らかくて傷がつきやすく割れやすい材でもあり、表面を硬くするための樹脂コートを考えました。

例会報告

しかしそれでは風合いが台無しになる、と次は木を圧縮する方法を開発した会社に行ったら、精度があまり良くなく、ムクムク戻ってきたり、また割れたりしてしまう。そんな時、岐阜大学で圧縮技術の研究をしている教授に「内側を圧縮して固定する曲木の技術を表面に使えば可能では」と助言いただきました。その後の研究・試行錯誤と、県の紹介による、当時世界で最も高名なデザイナーとの出会いを経てこの『HIDA』が誕生しました。

時間がないので走ります。

2001年から、とにかく家具を見て頂かなければ勝負にならないと、全国にショールームを展開しています。現在は仙台、東京、名古屋、大坂、福岡。そして東京・虎ノ門には直営店も出しております。



そして技術を守るために職人を育てなければと、2014年『飛騨職人学舎』というのを設立しました。育った職人は会社に残って活躍してくれる者、そして独立して頑張っている者と様々ですが、在学中の2年間休みは盆と正月のみで、携帯も恋愛も禁止です。男女一緒にの共同生活で当番がご飯を作り、午前中は工場、午後は教室、夕飯後にはレポートを書いて道具の手入れをして11時には寝るという、非常に厳しい生活を、しかし楽しそうにしています。2年経つと立派に技術を身につけ、卒業制作は「一番世話になった人が喜んでくれる家具」というテーマで作品を作るのですが、落ち着いてお化粧できるようにと化粧台、のんびり寛いでほしいと椅子、といった風に、大方がお母さんへ贈る作品に取り組みます。卒業式のご両親の感無量の涙を見ると、こちらの胸も熱くなります。こんなに厳しい学校に果たして学生が来るのか、という声もありましたが、九州・東京・北海道・秋田、そして台湾、様々な出身の若者が、20年くらいの立派な民家ですがここを寮にして、敷地の畑で野菜も育てて料理にしたりしながら学んでいます。彼らは例年、技能五輪に岐阜県代表として出場して銀賞・銅賞・敢闘賞といった立派な成績を収めて来てくれます。県代表と言っても、なかなか他社では若い職人にここまでの技術を習得させるまでに至らない、という事で県から出場するのは当社からだけという実情もあります。



こちらは2014年のグッドデザイン賞金賞を受賞した『KISARAGI・ダイニングチェア』です。日本中のメーカー4~5千の応募から10社しか選ばれない金賞の受賞は大変な栄誉です。

2016年には伊勢志摩サミットの円卓や、住友林業が外板を開発し、トヨタがミラノ・サローネに出展したコンセプトカーのSETUNAも当社で製作しました。世界一の家具見本市ミラノ・サローネには



2013年から6年連続で出展、2017年には私が「カンブリア宮殿」に出演させて頂いております。

社長就任より20年、お陰様で数字も回復傾向です。ご清聴ありがとうございました。



<ニコニコボックス>

●堀 和信さん、下屋 勝比古さん

・本日は出席・プログラム委員会担当例会です。今年創業100周年を迎えた飛騨産業株式会社のお話を岡田さんをお願いします。
・今週は平和な1週間の様ですが季節は秋になりました。天気は良くないですが周辺の山は色づきましたので、マスクを忘れずにちよいと山歩きをして深呼吸しに行ってみてはいかがでしょうか。

●岡田 賛三さん

本日はつまらない話ですがよろしくをお願いします。

●米澤 久二さん

岡田賛三さんにスピーチを依頼した所、心安くお引き受けいただきました。本日のお話楽しみにしております。よろしくをお願いします。

●挾土 貞吉さん

飛騨産業100周年おめでとうございます。今後ますますのご発展をお祈りします。

●田近 毅さん、平 義孝さん、阪下 六代さん、内田 幸洋さん、
斎藤 章さん、古橋 直彦さん、井辺 一章さん、田中 武さん、
門前 庄次郎さん、鴻野 幸泰さん、向井 公規さん、大村 貴之さん、
塚本 直人さん、長瀬 達三さん、新井 典仁さん、田邊 淳さん、
杉山 和宏さん、榎坂 純一さん、萱垣 敬慈さん、高井 道子さん、
中島 一成さん

今朝は高山らしい冷え込みでした。いよいよ紅葉が始まりますね。本日は岡田賛三さんの卓話です。素敵な話を期待しています。社長を務められる飛騨産業は今年100周年です。おめでとうございます。

●折茂 謙一さん

肝臓ガン治療のため10月5日入院し11日退院しました。現在ほぼ8割回復しました。もう4日位で元の生活パターンに戻れます。医学の進歩のお陰だと思ひ、心から感謝しています。

●下屋 勝比古さん

本日はブルズの熊本遠征帯同のため、早退します。ここまでまだ勝星がありませんので何とか白星を獲得したいものです。岡田さんのお話が聞けず残念で申し訳ありません。